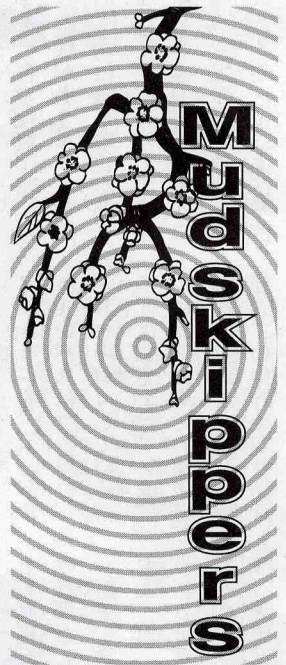


2002年、夏の熱い記憶



第6号
2002年10月発行

佐賀医科大学

〒849-8501

佐賀市鍋島5丁目1番1号

http://www.saga-med.ac.jp/

新聞編集委員会

印刷/協昭和堂

2002年暑い日が続いた。夏。運動部に所属している学生たちは、西日本医科大学学生総合体育大会(以後、西医体と略す)に向けて、汗まみれになりながら一生懸命練習に励んできた。西医体は西日本地区医科学生スポーツの祭典であり、今年で54回目を迎える伝統ある大会である。岐阜大学医学部の代表主管のもと参加校44校、参加者17000名に及ぶ大きな大会となった。7月27日から8月12日まで、20種目30競技が行われ、佐賀医大生はこのうち13種目に参加した。今年度の総合順位上位校は、1位 宮崎医科大学(43・5点)、2位 岡山大学(33・0点)、3位 富山医科薬科大学(37・0点)となった。佐賀医大は26位(170・5点)だった。以下に西医体における結果を載せる。



野球部

準硬式野球

優勝(1回戦) 佐賀医大
14-4 岐阜大学 2回戦 佐賀医大3-2 京都大学
3回戦 佐賀医大7-5 兵庫医大 準決勝 佐賀医大5-0 藤原医大 決勝戦 佐賀医大1-0 宮崎医大
前年度、準優勝のため2回戦から出場。初戦は主管校の岐阜大学に14-4で大勝。4番で部長の田中智和は5打数5安打の大活躍。佐賀医大を優勝に導いた。

バスケットボール

男子 1回戦 愛媛大学79-76 佐賀医大
愛媛大学に前半は勝っていたけれど、最後は3点差で惜敗。

サッカー

1回戦 熊本大学 2-1 佐賀医大
前大会、準優勝で2回戦から出場。今大会、優勝校の熊本大学に敗れ涙を飲む。

バレーボール

男子 3位(1回戦) 佐賀医大2-0 金沢医大 2回戦 佐賀医大2-0 広島大学 3回戦 佐賀医大2-0 関西医大 4回戦 佐賀医大2-0 九州大学 準決勝 産業医大2-1 佐賀医大 3位決定戦 佐賀医大2-0 京都府立医大
レフトエース中心のチームバレーで3位になった。「今年の九山、西医体と産業医大に負けたので来年の九山では勝って雪辱を晴らしたい」と今後の意気込みが感じられた。

柔道

男子 ナックルフォア 3位(葉隠クルー4年中 間健太郎・2年江崎拓也・1年奥山桂一郎・上田健太・森永崇) 4位(轟天クルー2年大坪 建・天野浩司・1年田中 淳・脇山幸大・安田 敬)

ボート

男子 ナックルフォア 3位(葉隠クルー4年中 間健太郎・2年江崎拓也・1年奥山桂一郎・上田健太・森永崇) 4位(轟天クルー2年大坪 建・天野浩司・1年田中 淳・脇山幸大・安田 敬)

水泳

2年三宮一郎 50m自由形6位入賞 決勝戦では緊張しながらも上々のスタートを切った。ラスト10mは精神力を振り絞って泳ぎ6位入賞。

剣道

1回戦突破ならず
3年木下麻悠子 40歳 自由形3位(銅メダル獲得) 200歳自由形6位入賞

ラグビー

1回戦 佐賀医大30-0 兵庫医大 2回戦 九州大学13-12 佐賀医大
各部活の代表者の皆様ご協力ありがとうございました。(敬称は略しました。)(河田・齊郷)



バレー部

の後スコアはあまり伸びなかった。2日目はメンパーを入れ替えて挑戦したがまたしてもスコアは伸びず、結局120射63中の7位に終わった。2年生・3年生の活躍が目立った。

バレーボール

女子 17位(34チーム中)
いいスタートを切れなかったが、徐々に調子を上げていった。でも、17位に終わってしまった。1年生でレギュラー入りした森川 綾の今後に期待。

柔道

女子 2回戦進出 6年 磯村直子 5年本田喜子
男子 ナックルフォア 3位(葉隠クルー4年中 間健太郎・2年江崎拓也・1年奥山桂一郎・上田健太・森永崇) 4位(轟天クルー2年大坪 建・天野浩司・1年田中 淳・脇山幸大・安田 敬)

ボート

男子 ナックルフォア 3位(葉隠クルー4年中 間健太郎・2年江崎拓也・1年奥山桂一郎・上田健太・森永崇) 4位(轟天クルー2年大坪 建・天野浩司・1年田中 淳・脇山幸大・安田 敬)

水泳

2年三宮一郎 50m自由形6位入賞 決勝戦では緊張しながらも上々のスタートを切った。ラスト10mは精神力を振り絞って泳ぎ6位入賞。

剣道

1回戦突破ならず
3年木下麻悠子 40歳 自由形3位(銅メダル獲得) 200歳自由形6位入賞

ラグビー

1回戦 佐賀医大30-0 兵庫医大 2回戦 九州大学13-12 佐賀医大
各部活の代表者の皆様ご協力ありがとうございました。(敬称は略しました。)(河田・齊郷)

一日480人分の食事の栄養管理から、それぞれに適した摂取方法。そして生活習慣と調理法の指導。これらを一挙にこなすのが、佐賀医大病院栄養管理室です。

栄養管理室のみなさん

開院以来、治療と密接に関わる栄養管理を行っている。患者さんに喜ばれる食事を目指して活躍してきた。大栄管理室はその成果から、なんと県知事病院給食調理コンクール4連続入賞という快挙を果たしています。

ヨット

富山の目ごとに変わる風の中、レースに臨み、好成績を収めた。新部長の中村隼人はこれからも上位を狙っていくと今後の抱負を語ってくれた。

水泳

2年三宮一郎 50m自由形6位入賞 決勝戦では緊張しながらも上々のスタートを切った。ラスト10mは精神力を振り絞って泳ぎ6位入賞。

剣道

1回戦突破ならず
3年木下麻悠子 40歳 自由形3位(銅メダル獲得) 200歳自由形6位入賞

ラグビー

1回戦 佐賀医大30-0 兵庫医大 2回戦 九州大学13-12 佐賀医大
各部活の代表者の皆様ご協力ありがとうございました。(敬称は略しました。)(河田・齊郷)



栄養管理室のみなさん

「食事は、磁器の食器を使っていただきますが、あれはいつからなんですか?」「医大では開院以来磁器を使っています。やっぱり食べごちが違いますよね。でも、磁器を使うのにも、かけやすくないか、食べにくいかなど、いろいろと模様がございまして、ままだらから気をつけてるんです。」

栄養管理室のみなさん

「食事は、磁器の食器を使っていただきますが、あれはいつからなんですか?」「医大では開院以来磁器を使っています。やっぱり食べごちが違いますよね。でも、磁器を使うのにも、かけやすくないか、食べにくいかなど、いろいろと模様がございまして、ままだらから気をつけてるんです。」

ヨット

富山の目ごとに変わる風の中、レースに臨み、好成績を収めた。新部長の中村隼人はこれからも上位を狙っていくと今後の抱負を語ってくれた。

水泳

2年三宮一郎 50m自由形6位入賞 決勝戦では緊張しながらも上々のスタートを切った。ラスト10mは精神力を振り絞って泳ぎ6位入賞。

剣道

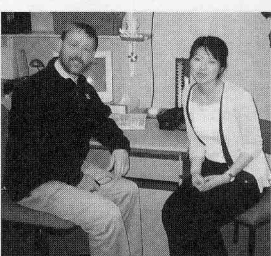
1回戦突破ならず
3年木下麻悠子 40歳 自由形3位(銅メダル獲得) 200歳自由形6位入賞

ラグビー

1回戦 佐賀医大30-0 兵庫医大 2回戦 九州大学13-12 佐賀医大
各部活の代表者の皆様ご協力ありがとうございました。(敬称は略しました。)(河田・齊郷)

英国医学校臨床実習の感想

医学科6年 瀧 香保子



今回、医学教育振興財団の援助のもと、イギリスのレスター大学で臨床実習を行いました。

今回、医学教育振興財団の援助のもと、イギリスのレスター大学で臨床実習を行いました。期間は5月8日より1ヶ月間、イギリスの中部に位置するレスター大学で実習を行いました。実習内容ですが、イギリスの3年生(イギリスの医学部は5年制で、3年次から臨床実習が始まります)と、共に4つのブロックで実習を行いました。2人1組、3、4科を1つのブロックとし、1ブロック8週間で4ブロック実習があります。私が一週目に行った実習では、月曜・午前中に内科の回診、午後には皮膚科の外来。火曜・午前中に内科の外来、午後には小児眼科。水曜・午前中に眼科、午後は講義。などです。この間に、先生からのレクチャーが何度か入ります。学生は主要疾患のリストを持っており、そのリストにある疾患の患者を探るような気がしました。この実習期間に、GP(一般医)の診療所も見学させていただきました。月頃に掲示されます。

食材についてのコメントなども付けるようにしています。」「ライチやパプリカなど、ちよつと珍しい食材も積極的に用いるようにされています。」

「患者さんの要望は、とても大切です。例えば、魚や肉がまったく食べられない方の場合、そのままでは、十分な栄養も摂りません。それから、治療によっては、生臭いものに敏感になったり、飲み込みにくかったりします。」

「一番気を遣うところは、何ですか?」「一番気を付けているのは食の安全性です。いろいろと便利な時代だけCal skillsの講義が入っているようで、とても慣れている様子でした。患者を見つけると、問診・診察をするのですが、日本のように経過を見ていくというよりも、診断をつける所までのようでした。そのため、患者・医師関係が養われていくのかは疑問の面もありました。講義は週に1回、約2時間のみ行われます。学生によるテーマ発表です。1・2年次では基礎医学を主に学ぶため、臨床医学の講義はほとんど行われていないといえます。しかし、その分、病棟実習中のミニレクチャー、短期集中型実習で外来・回診がない日などは家・図書館で自己学習という形でした。自己学習の時間が多く、個人の責任が大きく問われるシステムになっています。この実習期間に、GP(一般医)の診療所も見学させていただきました。月頃に掲示されます。

「医大では、特に消化器外科などでは栄養師・医師・看護師がチームとして活動しています。」「患者さんの要望は、とても大切です。例えば、魚や肉がまったく食べられない方の場合、そのままでは、十分な栄養も摂りません。それから、治療によっては、生臭いものに敏感になったり、飲み込みにくかったりします。」

「医大では、各患者さんの食事のオーダーは、すべてコンピューターで行われるそうです。そんな中、「患者さんの質問には必ず会って話します。」という本田先生の言葉には、説得力があります。(安達)

Hawaii大学の ゆかいな学生達

総合診療部 山城 清二



ポス的存在のアラン・W. 君、ハワイの貴公子チャド・Washington 君、冗談連発のジェイソン・Kaneshige 君、おかしな髪型で人目を引いたロンサン・Sato 君、そして Hawaii 美人のシャイラ・Penarosa さん以上5名のゆかいな Hawaii 学生が佐賀医大にやって来た。6月22日から7月20日までの4週間、Hawaii 大学の「Primary Care & Community Medi- cine Practice Preceptorship」という正式なプログラムの中のひとつとして佐賀医大での学生実習を選んだ。医学部1年生を終えて、2年生に進級する前の夏休みを利用して選択コースで、週目は総合外来で佐賀医大の6年生と共に実習し、世界のごくでも実習ができるユニークなプログラムである。佐賀医大は医学教育の充実を図るために今年2月に Hawaii 大学と姉妹校協定を結び、その一環として短期交換留学制度を昨年より開始した。Hawaii 大学の学生の受け入れは今年で2回目となる。また、佐賀医大の学生の Hawaii 実習は3回目を数える。我々の世代からは考えられない実に羨ましい制度を佐賀医大は導入した。さて、このゆかいな5人組は、4人グループと1人に分かれた。4人グループは佐賀医大を中心に実習し、残る1人のロサンサン君は聖マリア病院、久留米大学で実習をした。日本の医療事情を肌で感じることも文化交流をする目的であった。

4人グループは、第1週目は総合外来で佐賀医大の6年生と共に実習し、英語が堪能なタキさん(瀧香保子さん)が面倒をよくみてくれた。その他多くの友達を作り、別れの福岡空港では抱き合っ、涙、涙のシーンが繰り広げられたと聞く。その後この夏休み、9名の佐賀医大5年生が Hawaii 大学の PBL ワークショップに参加した。そこで、かの Hawaii 大学5人組が交代で連日佐賀医大の学生の面倒をみてくれたので、充実した Hawaii での2週間を過ごしたと思う。

このように、佐賀医大が Hawaii 大学の短期交換留学制度を作り上げたことは素晴らしいことである。来年度以降も良い学生を受け入れ、また送り出すこの制度を活用し、佐賀医大の学生が国際的視野を持てるようになることを望むものだ。

ハワイ大学で再度留学にチャレンジ

ハワイ大学看護学部大学院 谷口 初美

8月の下旬、キャンパスは卒業と入学とでめまぐるしい状況です。ハワイ大学は、Fall, Spring, Summer と3つの学期に1年間が分かれている。セメスター制を取っています。各学期終了時には卒業式があります。8月の下旬には卒業式がありました。アメリカの本土などと違って、卒業式には卒業生の身内や友人がハワイのレイ(生花の首飾り)を持ってかけつけ、卒業生は多くのレイに埋もれさまさまな花の香りとその重みに卒業の喜びと感動を新たにしています。卒業式が終わると世界中から新入生達がハワイへやってきて、今やキャンパスはワロウロ、キョロキョロしている新入生でにぎわっています。私は、日本での臨床経験後ハワイで RN (正看護師) の免許を取り病院で臨床経験を積みながら、ハワイ大学の公衆衛生学部修士課程を卒業しました。佐賀医科大学看護学科で5年間教鞭を取らせて頂きました。教壇に立つと教育における責任感とで自身もつと学ばなければいけないので、再度ハワイ大学に戻ってきました。詳しくは「アメリカ・カナダ医学・看護留学へのパスポート」(日米医学医療交流財団)はるるの市内観光、歓迎のウエルカムパーティーが繰り広げられています。今回のオリエンテーションで印象に残ったのは、ハラスメントやハラスメントに関する注意事項、健康保険、医療保険、予防接種の証明と米国の防接種スクリーニング、学生保健センターの使用法、ESL (英語研修センター)、履修手続きとそれぞれの部門の責任者がつぎつぎと細かいオリエンテーションとキャンパスツアーやホノ

南の島6週間

医学科5年 戸山 真吾



私たち9人は8月14日(28日)にハワイ大学にて「Learning From The Patients」と題した2週間のプログラムを終えてきました。その中で私たちがその独特なスタイルを体験するという貴重なチャンスに恵まれたわけですが、具体的な内容としては、ケースを利用したPBLを中心とし、模擬患者を用いた医療面接の練習、3時間だけでした。

このプログラムの中で一番印象に残ったもの、PBLについて述べると、これは「胸膈の解剖」とか「心筋梗塞と狭心症の違い」というようなかなり具体的な男性で激しい胸痛を訴えており、1時間前に救急車で搬送されました。Vital Sign (体温・脈拍数・呼吸数・血圧・体温)は：略…、15分以内で面接と身体診察をせよ。というふうなものです。その中から事実と問題点を抽出し、それに基づき考えられる仮説を立てていきます。その次に、仮説を裏付けるもしくは除外するために必要なことを考えます。それらの行

たが病棟の回診への参加、日本人研修医との交流ということでした。

このプログラムの中で、痛を引き起こす主な病気には何があるのだろうか」という漠然としたものから「胸膈の解剖」とか「心筋梗塞と狭心症の違い」というようなかなり具体的な内容まで、その範囲も基礎医学から臨床医学まで、疑問に思ったこと、理解が足りないと思っただけでも挙げていきます。例えばメモ紙に釘つけてアイコンタクトがなければその点は後でしっかりと注意されます。

今回のプログラムは、もちろん英語で行われたわけですが、自分はまだ英語が話せるほうではありませんが、聞き返したり、聞き返されたり、という繰り返しのなかで、学んだ事がありま

いことが書かれているチェックシートが配られており、その間他の人は質問したかどうかをチェックしています。そしてその後ここで患者役から得られた情報を基に患者さんのことを発表します。この時、内容や単語・発音・文法などのような英語の正しさだけでなく、声の大きさやスピード、ジェスチャーやアイコンタクトなど人前で発表するための基本的な技術も見られています。例えばメモ紙に釘つけてアイコンタクトがなければその点は後でしっかりと注意されます。

最後にになりましたが、このプログラムに関してハワイ大学のスタッフの方と様々な交渉をされた総合診療部の小泉教授、内科学の黒田教授を始め、このプログラムの実現に際しまして多大な御協力を賜りました皆様、この場を借りて御礼申し上げます。

特集



SMILEで は、患者さんや市民の方のアイデアや提案をもとに、病院でのイベント企画をしています。今まで病院で Comedy ショーや、コンサート、アーティストとのコラボレーション企画、そして院内図書館の設立など行ってきました。どれもたくさんの方に助けられながら形になることができてきたものです。そんな中、ちょっとした提案からハワイのボランティアグループとの共同企画が始まっています。まずは、ハワイの患者サポートグループ HUGS と共同企画、「Dream Hospital ゆめの病院」です。HUGS は、患者と

SMILE meets Hawaii !!

医学科4年 安達 正時



でなく、実現可能な夢から実現させたいという思いがあります。こんな企画に「おもしろい」の一言で乗ってくれた HUGS スタッフたちは本当に楽しく素晴らしい方々です。それから、もうひとつ紹介したいボランティアグループがあります。Keiki Cards は、ハワイ Card は、ハワイ

その家族によって設立した情報提供とサポートを行うハワイのグループです。この企画では、小児科の子供たちと一緒に「ゆめの病院」の絵を描いてもらい、佐賀とハワイの作品を互い展示します。現在佐賀医大病院の患者さんの作品をハワイの HUGS が展示会を行っています。

この企画は、もともと、医大の小児科にお子さんが入院していたお母さんのアイデアでした。この企画には、ただ患者さんの「ゆめの病院」を絵に描いてもらうだけ

を拠点としてオーストラリア、アメリカ、カナダなどで入院中の子供たちに手作りのカードやプレゼントを送っているとてもユニークなグループです。HUGS の活動をしてく中で出会ったグループです。Keiki Cards への登録は SMILE を通じて行うことができます。SMILE では翻訳も行っているため、英語の手紙がきても心配ありません。ちなみに、「Keiki」とは Hawaiian の「子供」のことです。

偶然的連続で実現してしまった企画ですが、本当に感動的なのは、たった一人の患者さんの声が、佐賀だけでなくハワイの人たちにも伝わっていったということではないか

と思います。HUGS の Steve の言葉を借りれば、やっぱり「楽しいことはどこどこでも一緒」なんだと思います。

おまけ
SMILE では、市民ボランティアを募集しています。ボランティア対象のセミナーや交流会なども計画しています。

興味がある方、ぜひぜひ、ご連絡ください。Eメールアドレス: sg9003@post.saga-med.ac.jp



講座 Q and A : 第3回 生体構造機能学講座:神経生理学分野

教室員: 熊本栄一(教授)、藤田亜美(助手)、楊鯤(助手)、勞力軍(助手)、松本徳昭(院生)、川崎康彦(院生)、古賀亜希子(院生)、柳涛(留学生)、山北さとみ(事務官)
研究課題: 脊髄後角における痛み情報伝達制御機構のシナプスレベルにおける解析

第8回佐賀医科大学医学教育ワークショップ
Panel Discussion: チューターの役割について

第8回佐賀医科大学医学教育ワークショップにおいてパネルディスカッション「チューターの役割について」が開かれました。今年2年生としてPBLを経験した5名の学生諸君とtutorを務めた5名の教師との間でのディスカッションは以下のような模様でした。

tutorの介入はほどほどに、しかし熱意を示して欲しい……!?

学生の意見

⇒「自分たちが学習した内容についてディスカッションをしている時に、教師として有するより深い知識を教えようとしなくて欲しい」
⇒「質問の内容が専門的で深く、かつ回数が多いと自分たち学生のディスカッションが中断されてしまう、」
⇒「tutorの先生が頷きなどの反応を示しながら学生の討論を聞いてくれたりすると嬉しいし、逆にtutorの先生が全く無関心の様子だと学生のやる気も削がれる」

教師の意見:

⇒「2年次のPBLははっきりとした結論に至るという訳ではないのでtutorは何を目標に指導すれば良いのか、tutorの位置付けが解りにくい、」
⇒「正解に誘導するのか、あるいは討論の筋道が立ってれば概ねヨシとするのか、そのあたりの判断が難しいです」
⇒「学生に進行役・司会役をさせると話もスムーズに行くのではないかとこれはこう言う意味?それはこの間教わったじゃない、など話せると思う」
⇒「気楽にクラブのキャプテン(も大変でしょうが)のような気持ちで望めば良いのでは」

PBLではどのような能力を身に付けていけば良いの?

学生の意見:

⇒「3・4年次はあらゆる疾患について多くの知識を勉強していく必要があると思うけど、講義が少ないphase3のPBLで臨床医に必要な知識を網羅できるだろうか」
⇒「グループ内でのディスカッションが上手になるような指導もして欲しい、」
⇒「自己学習の発表は個人の調べものを単調に聴くだけの時間になっているが皆でディスカッションが盛り上がる方法はないか」

教師の意見:

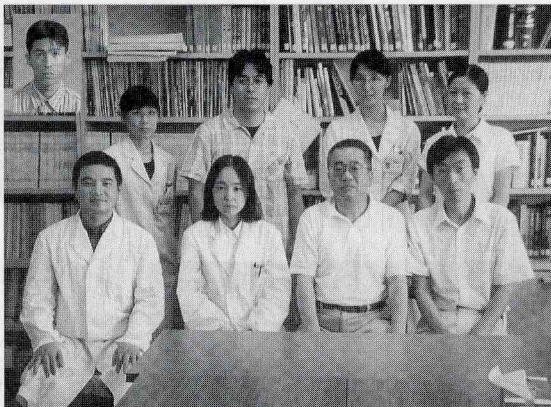
⇒「3・4年次PBLは事例の結論がはっきりと定まっているとはいえ、事例に関する周辺知識を沢山教えないと、否、学習してもらわねばならない。どのように知識ベースを構築する(させて行く)か十分に考える必要がある、」
⇒「9月からの3年次PBLでは実のところ結構な数の講義が予定されているので、自己学習と併せて沢山の知識を身に付けることはできると思う、」
⇒「スピーチは個人で行うものだが、他との関係の中でのみうまれるディスカッションでは自己と異なる意見に耳を傾けることが要求される。しかし、これも小グループ制の産物として学生のみでなくtutorにとっても学ぶべきものと思う」
などの発言がありました。

介入はあまりして欲しくないが、だからと言って無関心でいるのではなく熱意を示して欲しい、というリクエストに上手に答えるのはなかなか難しい?ようにも思います。tutorは熱意を示しながらも過度の介入はせず、という微妙なバランスをとる tutoring skill を身に付けていく必要があります。

記録・文責 青木洋介(内科)

このコーナーでは佐賀医大の基礎医学講座における研究の数々をわかりやすく紹介していきます。今回インタビューに答えて頂いたのは生体構造機能学講座神経生理学分野の熊本先生です。
Q: 熊本先生の研究グループの概要を教えてください。
A: 私たちの神経生理グループは昭和54年に結成されて以来、自律神経系や中枢神経系におけるシナプス伝達の制御機構を解明するための研究を重ねています。現在、教室員は9名おり皆で協力して研究を進めています。
Q: この講座で現在行われている研究について教えてください。
A: 医療の中で患者の痛

みへのケアは大切な要素であり、痛みの情報伝達への仕組みを解明することは患者を痛みから救うために重要な要素です。これらはいずれも神経細胞などを用いて研究を行っています。
Q: 研究によって明らかになってきたことについて教えてください。
A: 痛みを抑える物質は脊髄後角のシナプスにおいて、痛み情報伝達そのものに働く受容体やその伝達を修飾する受容体に結合して作用を發揮することが明らかになりました。また、痛みの情報伝達制御の仕組みは、学習・記憶の制御機構と似ていることがわかってきました。



川崎 山北 松本 古賀 柳
楊 藤田 熊本 熊本 勞

く上でも大変重要で、痛みは鎮痛薬投与によって軽減できますし、また、同じ強さの痛覚刺激でも置かれた状況によって痛みの過分極作用によって痛み情報は伝える中枢神経シナプスにおいて伝達効率が低下するために起こります。私たちはこう

した機序を解明するために、ラット脊髄後角の神経細胞などを用いて研究を行っています。
Q: 研究によって明らかになってきたことについて教えてください。
A: 痛みを抑える物質は脊髄後角のシナプスにおいて、痛み情報伝達そのものに働く受容体やその伝達を修飾する受容体に結合して作用を發揮することが明らかになりました。また、痛みの情報伝達制御の仕組みは、学習・記憶の制御機構と似ていることがわかってきました。

痛みを引き起こす一方で鎮痛作用を併せ持つ化学物質であり、その作用機序は興味深いです。また大麻の抽出物から得られる「カンナビノイド」と総称される生理活性物質が作用する受容体も痛みに関係しているとの知見が得られており、注目されています。
Q: 最後に学生に向けて一言お願いします。
A: 一人でも多くの学生に神経科学の分野に進んで研究を行ってほしいと思います。大学院もあるので興味のある人は是非神経科学関連の講座に入って一緒に研究しましょう。
以上
ありがとうございました。
次回も御期待ください。(小松)

文化

アルヒーフ
書庫の窓辺にて

音楽雑感

〈第2回〉

先日福岡で、ベルティーニの演奏会に足を運んだ。ブルームスのバイオリン協奏曲にドビュッシー、ラヴェルのポピュラー曲というプログラムで前半はブルームスを持ってくるころなど、いかにも日本人向けの名曲コンサートのようにいささか興ざめするところがあったが、それも素晴らしかった。ベルティーニのマーラーは私も愛聴している、彼がケルン放送響を鍛えあげて実現したベルティーニサウンドを基調とした、痒いところには手の届くような演奏は、凡百の指揮者の追隨を許さぬ凄みがある。今演奏会も、まずベルティーニのタクトから生まれる美しいリズムが秀逸だった。終楽章冒頭でえいっとリタルダントをかけてみたり、地方公演でここまで、という驚きを通り越して、音楽を楽しんでいる風情が微笑ましかった。サイン会の折、間近で彼を見るのができたが、子供のようにながら、無邪気な表情のマエストロに、ソリストの凡演も帳消しである。だがこの演奏会でもう一つ印象的だったのは、都響の力である。ベルティーニの治世下、鍛えられたこのオケの最も特筆すべき成果は、その機動力の獲得であり、彼らの目指す先に、あのベルリン・フィルの姿を想像するのは私だけだろうか。
今年には往年の名指揮者カール・シューリヒトの没後35年にあたり、外資系のCDショップには3枚組¥2,000の「シューリヒトの芸術」が5シリーズも店頭に並んだ。その中でも白眉は、1964年のベルリン・フィルニューイヤーコンサートと比較して小澤に軍配を上げていたが、アーノンクルの不出来の責任はシューリヒトの体たらくにあるに過ぎず、基本的な指揮者の技量の面では小澤がアーノンクルに及ぶべくもない。それはともかく、伝統の名の下に純血主義を守って往年の天国的な響きを失いつつあるウィーン・フィルと、徹底したボーダレス政策で、あらゆるオケから若手をかき集めながら伝統を堅持するベルリン・フィル。伝統をいかに守っていくかという難しさを、彼らの今日の姿を見るにつけて痛感させられるのである。(吉田)



カール・シューリヒト

今年も解剖学実習がまもなく始まる。秋から冬へ、医学科2年生にとっては人体に学ぶ日々である。しかし解剖学実習が終わり、学年が進んでも解剖学での勉強が不十分だったという学生がいたり、あるいはそれを不審に思う方もいるかもしれない。かつて解剖学以外の諸科学が発展途上にあつたころ、すでに確立された学問となつていた解剖学のために十分な時間が割かれていたという。時間をかけてじっくりと解剖学を学ぶというよりも、人体に学ぶにはあまり勉強することもなかったといつたら言い過ぎかもしれない。しかし、昨今の分子生物学、免疫学、あるいは遺伝学といった学問分野が挙げられた膨大な成果と、それらの臨床応用への急速な進展をみると、今日の医学生が勉強する科学知識の量は、数十年前とは比較すらできないであろう。
学生は実習期間中、夜8時、9時過ぎまで遺体と向き合うが、そうした見渡すことすら難しい。一方、国全体の財政圧縮の方針に答えるかのように、厚生労働省は国民に医療費負担増を要求し、マスコミは国民の目を医療事故、医療関係者の事件と医師の資質、医学教育との関連に向けようとしている。
このような不合理な厳しさの中で、学生諸君は相応の努力をしていると見たい。解剖学実習個人課題記録(学内向けホームページ)に公開の中にとらりと光る彼らの知性と正義感の芽を感じるのは筆者だけか。(塩原)



相生

あいあい
～第4回・前編～
中国人民解放军第四軍医大学

佐賀医大が国際交流協定を締結している大学

締結大学名	国名	締結年月日
江西医学院	中華人民共和国	H5年2月22日
大連医科大学	中華人民共和国	H10年10月29日
第四軍医大学	中華人民共和国	H12年10月31日
ハサヌディン大学	インドネシア共和国	H13年1月29日
ハワイ大学IAB医学部	アメリカ合衆国	H14年2月14日

「佐賀医科大学の国際交流」というと、今号でも特集が組まれているハワイ大学のことを真っ先に思い浮かべる人が多いことでしょう。それは、近年華々しく学生交流がなされている成果の賜物と存じます。ところが、佐賀医大にはハワイ大学以外にも親しくしている大学が実は在るのです。本学は現在計5つの大学と国際交流協定を締結しており、学生交流・研究者交流・研究協力・医学資料や出版物の交換等を行っています。

今回はハワイ大学以外の姉妹校にも興味を持ってもらえたらと思います。この中のひとつ「中国人民解放军第四軍医大学」の紹介をします。

第四軍医大学は西安に在り、1941年に医学学校から発展した第四医学院として創られ、1954年に第五医学院と合併して第四軍医大学となり、現在では中国にある4つの軍医大のなかでも最大規模だと言われています。江沢民国家主席の主治医もこの大学の出身者だとか。学生数は約5000人で、教員数は約800人のほりです。附属病院は全土で3つ(総合病院2、歯科病院1)を持ち、ベッド数は約2700床。年間の外来患者数は約10万人で、入院患者数は約4万人。基礎医学研究教室・図書館・実験動物センター・ネットワーク等の教育施設が充実しており、研究レベルの方も全国でもトップクラスです(：国からの科学助成金の多さもトップクラス)。国際交流も積極的に行われており、本学にも第四軍医大学からの留学生がおります。

部活動紹介

秋といえばスポーツや文化活動に最適な季節ですね。このコーナーでは体育系部活と文化系部活を各号1つずつ紹介していきます。今回は、ヨット部と室内楽部を紹介いたします。

- 問**
- ①現在の部員数
 - ②普段の活動内容
 - ③1年間の主な行事
 - ④2002年の成績
- 質**
- ⑤部活のモットー
 - ⑥今年の学園祭での活動
 - ⑦おすすめのお店
 - ⑧自慢・PR

ヨット部

- ①** 28名(男子13名、女子15名)
- ②** 水・土曜日に唐津市ヨットハーバーでヨットに乗っています。
- ③** 西日本インカレ、西医
- ④** 西医体：470級10位、スナイフ級17位、総合14位
- ⑤** 清く、正しく、美しく
- ⑥** フライドチキン、フライドポテト、かぼちゃのポタージュを売ります。
- ⑦** 深川食堂(食堂だけど居酒屋です)

室内楽部

- ①** 28名(男子9名、女子19名)
- ②** 個人練習プラス学園祭、クリスマス、新歓等行事の前にはみんなで練習します。
- ③** 学園祭での演奏、新



ヨット部



室内楽部



去る7月6日に平成14年度同窓会主催シンポジウム、名付けて「いいたい放題シンポジウム」を開催しました。

シンポジスト・演題

佐藤 武(医1期、佐賀大学保健管理センター教授)・これからの大学像

江頭省吾(医1期、済生会福岡総合病院、離島医療部長、地域医療連携室長、健診センター部長)・離島

医療をやってみませんかー玄海島診療所についてー

国安弘基(医3期、奈良医大腫瘍病理学教授)・奈良に生きるー教室の紹介と求人ー

高橋邦康(医3期、陸別町国保診療所副所長)・北海道の過疎地医療への

富岡譲二(医3期、国立国際医療センター救急部緊急治療医長、日本医科大学高度救命救急センター講師)・新しい心肺蘇生法：いつでも、どこでも、だれでも

内山倫子(医5期、佐賀医大産婦人科助手)・院内保育園設立の全く進んでいない現状について

富田伸司(医5期、国立循環器病センター再生医療部細胞組織工学研究室長)・留学経験・研究内容の紹介ー細胞を用いた

心筋再生ー枝國源一郎(医8期、源勇会枝國医院)・開業医として思うこと、また同窓会に期待すること

伊東幸彦(医17期、伊東内科クリニック)・研修医1年目で院長になって紙面上では個々の詳しい内容の紹介ができませんが、どの発表も短い時間ではもったいないものばかりでしたので、発表の内容を同窓会報に掲載することにしました。ご希望の方はご連絡ください。れば差し上げます。

シンポジウムの最後に、各々の発表にも関連して同窓会として次の様に決まりました。

1、病院内保育所の設立を昨年に引き続き今年度も積極的に大学側に訴えていく

2、同窓生の情報ネット

今年の夏は異常な猛暑が続きましたが、編集委員の方々の努力により充実した内容の第6号を発刊することができました。

夏休み返上で企画、編集に当たられた木本編集委員長はじめ編集委員の皆様には心から感謝しています。(副島)

新聞編集委員

- 木本雅夫教授(編集委員長)
- 植原恒彦教授、池田豊子助教授、尾崎岩太先生
- 小松 信俊(医5)、坂本 佳子(医5)、
- 藤井 可(医5)、藤井 佳行(医5)、
- 安達 正時(医4)、中司 宏貴(医4)、
- 吉田 雄一(医4)、市川 雅子(看3)、
- 稲富万里子(看3)、河田 康祐(医2)、
- 齊郷智恵美(医2)、
- 棚町 豊二(フォトセンター)
- 副島 政弘(緒方 哲、)
- 黒木 幸代(学生課職員)
- 要望等の連絡先 黒木
- 教務部学生課総務係 kurokiy@post.saga-med.ac.jp

「いいたい放題シンポジウム」を終えて

佐賀医大同窓会会長 山城 清二

ワーク作りの一環としてホームページを立ち上げる

病院内保育所については、大学側もその必要性を十分に理解しつつも、佐賀大学との統合を控えている為に現時点では目に見る動きができません。同窓会としては問題を棚上げされないように注意深く見守りながら且つ積極的にアプローチしていくことが必要です。また情報ネットワーク作りについては、今回の様な企画をしてみても全国に広がっている同窓生の皆様の活躍を再認識しました。そこで今回の参加者以外の方にも同窓生の中にもユニークな活躍をされている方も多くいると思いますので、お互いの情報交換の場としての機能をもったホームページ作りを企画したものです。

講座の改組再編

本学では平成12年4月に大学改革推進委員会が設置され、教育研究体制の改善に関して、「講座」の改組再編「および「教員任期制」の検討が開始された。競争的環境に対応し「個性を輝かす」ことを基本精神として1年半以上にわたる検討の結果、表に示すよう

大講座名	旧講座等名
分子生命科学講座	一般教育等(化学、生物学)、生化学、薬理学
生体構造機能学講座	解剖学、生理学
病因病理学講座	微生物学、病理学
社会医学講座	地域保健科学、法医学
部門名	旧講座等名
医療情報システム研究部門	数学、情報、数理科学、物理学、医療情報学*
医療教育開発部門	哲学、英語、ドイツ語、総合診療学*
重点医療研究部門	生化学*、免疫血液学、地域保健科学*
社会生活行動支援部門	心理学、社会学

*一部兼任担当

第26回 日本医学会総会

- 総会** 特別シンポジウム「日本の医療の将来」
【日程】2003年4月4日(金)～4月6日(日)
【会場】福岡国際会議場・福岡サンパレス・シーホークホテル&リゾート
- 展示** 展示テーマ「社会が育てる医学と医療」
【日程】2003年4月2日(水)～4月8日(火)
【会場】マリンメッセ福岡・福岡国際センター・福岡ドーム

登録費	特別割引登録料		登録料
	2002.10/1～2003.1/31	2003.1/31～	
卒後4年までの医師・歯科医師	15,000	20,000	20,000
コ・メディカル	5,000	8,000	8,000
学生・大学院生	2,000	3,000	3,000
同伴者	3,000	5,000	5,000

九州で初めての医学会総会です。これからの医学を展望できるよい機会ですので学生諸君の参加を歓迎します。インターネットからも参加事前登録できます <http://www.isukai.com/>

オープンキャンパス

佐賀医科大学大学説明会(オープンキャンパス)が、去る年7月31日に開催され、九州各県はもとより遠くは関東まで400名以上にのぼる受験希望者・保護者・進路指導教諭等の参加がありました。この大学説明会は毎年好評を博しており、年々参加者が増加しています。

今年は、午前中に看護学科、午後には医学科の説明会を臨床講堂で開催し、先生方や在学生による学科紹介や平成15年度入試概要の説明を行いました。その後の質疑応答では、学生ボランティアが雰囲気大いに盛り上げ、受験や医師・看護師という職業に関することから佐賀医科大学でのキャンパスライフに関することまで幅広く質問が飛び交い、説明会終了後も参加高校生達に学生ボランティアの周りに集まり、時間内には聞くことができなかった質問をなげかけていました。また、フリータイムを利用



相生

あいあい
～第4回・前編～
中国人民解放军第四軍医大学

佐賀医大が国際交流協定を締結している大学

締結大学名	国名	締結年月日
江西医学院	中華人民共和国	H5年2月22日
大連医科大学	中華人民共和国	H10年10月29日
第四軍医大学	中華人民共和国	H12年10月31日
ハサヌディン大学	インドネシア共和国	H13年1月29日
ハワイ大学IAB医学部	アメリカ合衆国	H14年2月14日

「佐賀医科大学の国際交流」というと、今号でも特集が組まれているハワイ大学のことを真っ先に思い浮かべる人が多いことでしょう。それは、近年華々しく学生交流がなされている成果の賜物と存じます。ところが、佐賀医大にはハワイ大学以外にも親しくしている大学が実は在るのです。本学は現在計5つの大学と国際交流協定を締結しており、学生交流・研究者交流・研究協力・医学資料や出版物の交換等を行っています。

今回はハワイ大学以外の姉妹校にも興味を持ってもらえたらと思います。この中のひとつ「中国人民解放军第四軍医大学」の紹介をします。

第四軍医大学は西安に在り、1941年に医学学校から発展した第四医学院として創られ、1954年に第五医学院と合併して第四軍医大学となりました。現在では中国にある4つの軍医大のなかでも最大規模だと言われています。江沢民国家主席の主治医もこの大学の出身者だとか。学生数は約5000人で、教員数は約800人のほりです。付属病院は全土で3つ(総合病院2、歯科病院1)を持ち、ベッド数は約2700床。年間の外来患者数は約10万人で、入院患者数は約4万人。基礎医学研究教室・図書館・実験動物センター・ネットワーク等の教育施設が充実しており、研究レベルの方も全国でもトップクラスです(：国からの科学助成金の多さもトップクラス)。国際交流も積極的に行われており、本学にも第四軍医大学からの留学生がおります。

部活動紹介

秋といえばスポーツや文化活動に最適な季節ですね。このコーナーでは体育系部活と文化系部活を各号1つずつ紹介していきます。今回は、ヨット部と室内楽部を紹介していきます。

- 問**
- ①現在の部員数
 - ②普段の活動内容
 - ③1年間の主な行事
 - ④2002年の成績
- 質**
- ⑤部活のモットー
 - ⑥今年の学園祭での活動
 - ⑦おすすめのお店
 - ⑧自慢・PR

ヨット部

- ①** 28名(男子13名、女子15名)
- ②** 水・土曜日に唐津市ヨットハーバーでヨットに乗っています。
- ③** 西日本インカレ、西医
- ④** 西医体：470級10位、スナイフ級17位、総合14位
- ⑤** 清く、正しく、美しく
- ⑥** フライドチキン、フライドポテト、かぼちゃのポタージュを売ります。
- ⑦** 深川食堂(食堂だけど居酒屋です)



ヨット部

⑧ 極めれば海を支配できららしい。

室内楽部

- ①** 28名(男子9名、女子19名)
- ②** 個人練習プラス学園祭、クリスマス、新歓等行事の前にはみんなで練習します。
- ③** 学園祭での演奏、新



室内楽部

- ④ 楽しく音楽を
- ⑤ 学食での演奏
- ⑥ 「ラ・マニエ」(福岡パスタ屋さん)、「吉椿」
- ⑦ 個人に合わせた自由に活動できるのが魅力的です。(市川・稲壺)

講座の改組再編

本学では平成12年4月に大学改革推進委員会が設置され、教育研究体制の改善に関して、「講座」の改組再編「および」教員任期制の検討が開始された。競争的環境に対応し「個性を輝かす」ことを基本精神として1年半以上にわたる検討の結果、表に示すよう

大講座名	旧講座等名
分子生命科学講座	一般教育等(化学、生物学)、生化学、薬理学
生体構造機能学講座	解剖学、生理学
病態病態科学講座	微生物学、病理学
社会医学講座	地域保健科学、法医学
部門名	旧講座等名
医療情報システム研究部門	数学、情報、数理科学、物理学、医療情報学*
医療教育開発部門	哲学、英語、ドイツ語、総合診療部*
重点医療研究部門	生化学*、免疫血液学、地域保健科学*
社会生活行動支援部門	心理学、社会学

*一部兼任担当

第26回 日本医学会総会

- 総会** 特別シンポジウム「日本の医療の将来」
【日程】2003年4月4日(金)～4月6日(日)
【会場】福岡国際会議場・福岡サンパレス・シーホークホテル&リゾート
- 展示** 展示テーマ「社会が育てる医学と医療」
【日程】2003年4月2日(水)～4月8日(火)
【会場】マリンメッセ福岡・福岡国際センター・福岡ドーム

登録費	特別割引登録料		登録料
	2002.10/1～2003.1/31	2003.1/31～	
卒後4年までの医師・歯科医師	15,000	20,000	20,000
コ・メディカル	5,000	8,000	8,000
学生・大学院生	2,000	3,000	3,000
同伴者	3,000	5,000	5,000

九州で初めての医学会総会です。これからの医学を展望できるよい機会ですので学生諸君の参加を歓迎します。インターネットからも参加事前登録できます <http://www.isukai.com/>

「いいたい放題シンポジウム」を終えて

去る7月6日に平成14年度同窓会主催シンポジウム、名付けて「いいたい放題シンポジウム」を開催しました。

シンポジスト・演題

佐藤 武(医1期、佐賀大学保健管理センター教授)「これからの大学像―佐賀医科大学と佐賀大学の合併―」

江頭省吾(医1期、済生会福岡総合病院、離島医療部長、地域医療連携室長、健診センター部長)「離島

富岡譲二(医3期、国立国際医療センター救急部緊急治療医長、日本医科大学高度救命救急センター講師)「新しい心肺蘇生法：いつでも、どこでも、だれでも」

内山倫子(医5期、佐賀医大産婦人科助手)「院内保育園設立の全く進んでいない現状について」

富田伸司(医5期、国立循環器病センター再生医療部細胞組織工学研究室長)「留学経験・研究内容の紹介―細胞を用いた

医療をやってみませんか―玄海島診療所について―」

国安弘基(医3期、奈良医大腫瘍病理学教授)「奈良に生きる―教室の紹介と求人―」

高橋邦康(医3期、陸別町国保診療所副所長)「北海道の過疎地医療へのいざない」

伊東幸彦(医17期、伊東内科クリニック)「研修医1年目で院長になって紙面上では個々の詳しい内容の紹介ができませんが、どの発表も短い時間ではもったいないものばかりでしたので、発表の内容を同窓会報に掲載することにしました。ご希望の方はご連絡ください。れば差し上げます。」

シンポジウムの最後に、各々の発表にも関連して同窓会として次の様に決意いたしました。

1、病院内保育所の設立を昨年に引き続き今年度も積極的に大学側に訴えていく

2、同窓生の情報ネット

ワーク作りの一環としてホームページを立ち上げる

病院内保育所については、大学側もその必要性を十分に理解しつつも、佐賀大学との統合を控えている為に現時点では目に見えない動きができません。同窓会としては問題を棚上げされないように注意深く見守りながら且つ積極的にアプローチしていくことが必要です。また情報ネットワーク作りについてですが、今回の様な企画をしてみても全国に広がっている同窓生の皆様の活躍を再認識しました。そこで今回の参加者以外の同窓生の中にもユニークな活躍をされている方も多くいると思いますので、お互いの情報交換の場としての機能をもったホームページ作りを企画したものです。

オープンキャンパス

佐賀医科大学大学説明会(オープンキャンパス)が、去る年7月31日に開催され、九州各県はもとより遠くは関東まで400名以上にのぼる受験希望者・保護者・進路指導教諭等の参加がありました。この大学説明会は毎年好評を博しており、年々参加者が増加しています。

今年は、午前中に看護学科、午後には医学科の説明会を臨床講堂で開催し、先生方や在学生による学科紹介や平成15年度入試概要の説明を行いました。その後の質疑応答では、学生ボランティアが雰囲気大いに盛り上げ、受験や医師・看護師という職業に関することから佐賀医科大学でのキャンパスライフに関することまで幅広く質問が飛び交い、説明会終了後も参加高校生達に学生ボランティアの周りに集まり、時間内には聞くことができなかった質問をなげかけていました。また、フリータイムを利用した。医師・看護師をめざす熱意あふれる受験生と過ごした一日は彼らにとっても初心に返る良い機会となったようです。(入試係 田崎・田中)



新聞編集委員

- 本木雅夫教授(編集委員長)
- 植原恒彦教授、池田豊子助教授、尾崎岩太先生
- 小松 信俊(医5)、坂本 佳子(医5)、
藤井 可(医5)、藤井 佳行(医5)、
安達 正時(医4)、中司 宏貴(医4)、
吉田 雄一(医4)、市川 雅子(看3)、
稲富 万里子(看3)、河田 康祐(医2)、
齊郷 智恵美(医2)、
棚町 豊二(フォトセンター)
副島 政弘(緒方 哲、
黒木 幸代(学生課職員)
要望等の連絡先
教務部学生課総務係 黒木
kurokiy@post.saga-med.ac.jp

編集後記

今年の夏は異常な猛暑が続きましたが、編集委員の方々の努力により充実した内容の第6号を発刊することができました。

夏休み返上で企画、編集に当たられた本木編集委員長はじめ編集委員の皆様には心から感謝しています。(副島)